

# 富山市都市マスタープラン(素案)の 概要について

富山南部地域・大山地域

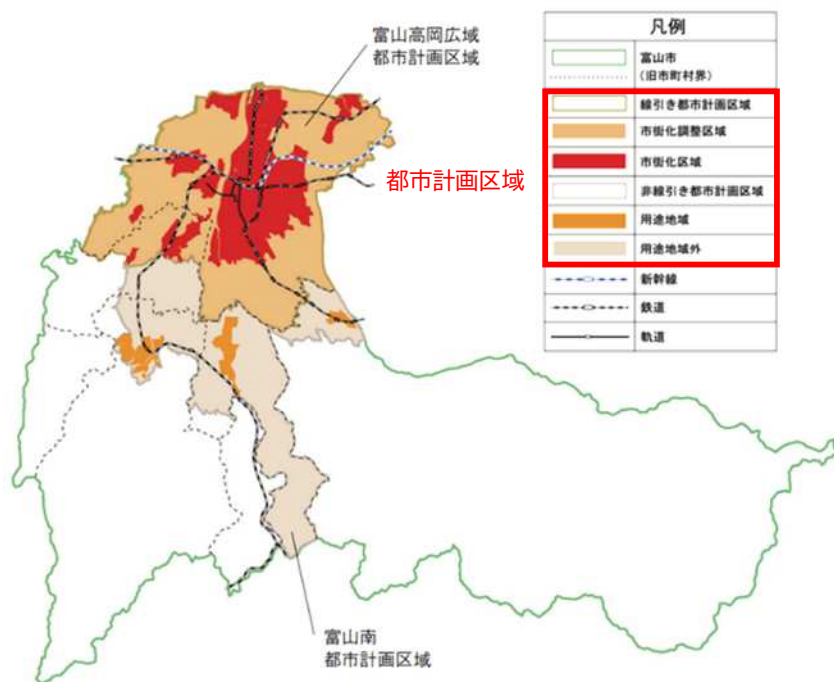
- ・都市計画法第18条の2に基づき定める「市町村の都市計画に関する基本的な方針」であり、概ね20年を見据え、本市の都市づくりの方針を示すもの
- ・上位計画である富山市総合計画と都市計画区域マスタープラン(県)に即したもの

## &lt;対象区域&gt;

市全域  
(都市計画区域を重点的に扱う)

## &lt;目標年次&gt;

概ね20年後  
2045(令和27)年



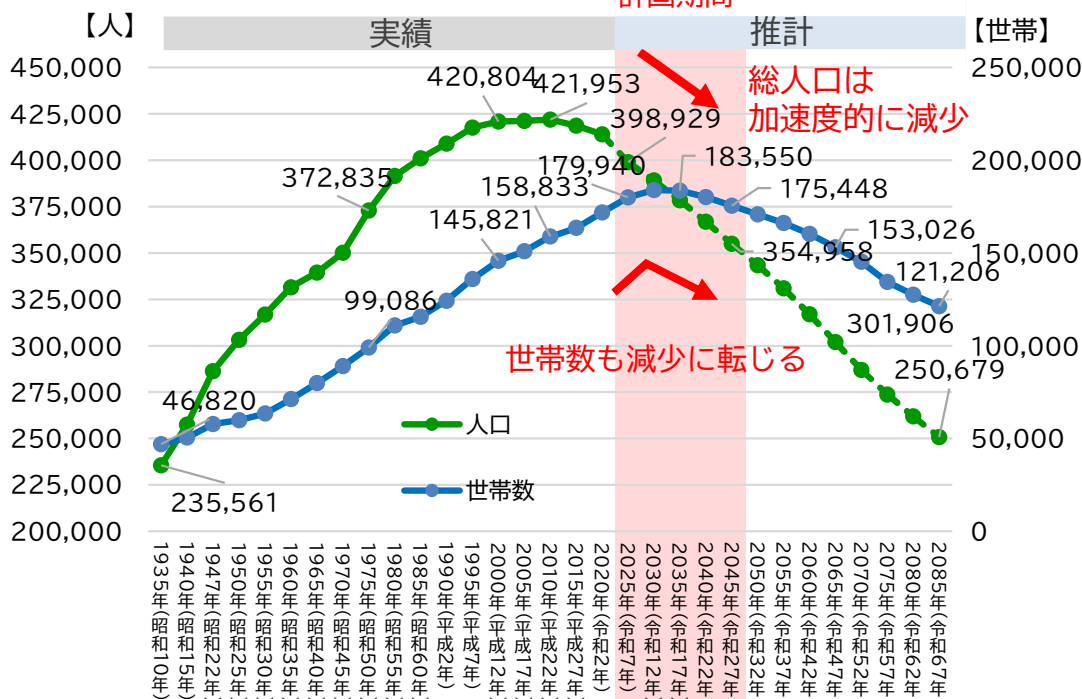
## 第I編 全体構想

## 現状の課題認識

- ・「コンパクトなまちづくり」により、市街地の外延化が抑制され、人口の低密度化に一定の歯止めがかかった持続可能な魅力ある“まち”への転換が進んでいます。
- ・しかし、今後、加速度的な人口減少と世帯減少への転換は、空き家・空き地の増加を促すなど、市街地に様々な影響を及ぼし、“まち”の問題は、より複雑化・深刻化することが懸念されるため、「市街地の人口密度低下」と「都市管理コストの上昇」を抑制させながら、既成の市街地や資源を活用して魅力が高まるまちづくりに取り組む必要があります。

## &lt;人口と世帯数の実績と将来推計&gt;

計画期間



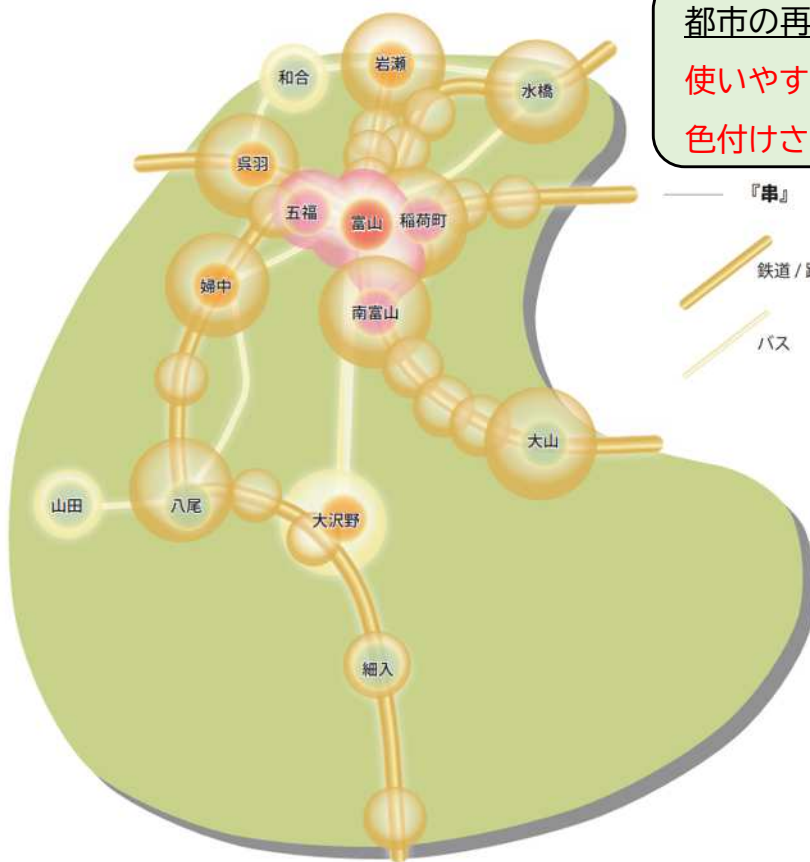
## &lt;課題認識&gt;

- ①公共交通の持続性が低下し、極めて生活しづらい“まち”への転換
- ②“まばら”な市街地と“まち”の老朽化による生活環境の悪化
- ③拠点性の低下による都市全体の活力と魅力の喪失
- ④社会情勢の変化等による都市環境の変化

出典:実績(1935年～2020年)は国勢調査

推計は令和6年度富山市将来人口推計報告書(2025年～2070年)及び独自推計(2075年以降)

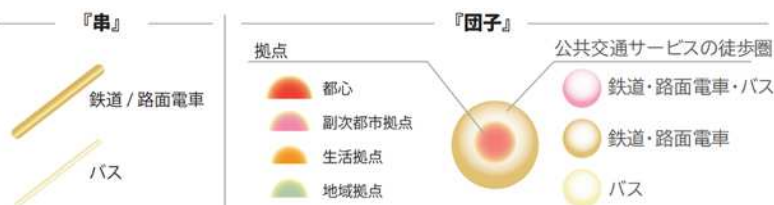
公共交通の活性化と、その沿線に居住や都市機能の集約を図るコンパクトなまちづくりを継続し、地域の資源を活かして魅力を最大化する拠点形成や既成市街地の利活用により、『公共交通を軸とした都市の再構築による拠点集中型のコンパクトなまちづくり』の実現を市民とともに目指す



都市の再構築により目指すお団子と串の都市構造

使いやすい「串」: 利便性や質の高い公共交通

色付けされた「お団子」: 串で結ばれた特色ある徒歩圏

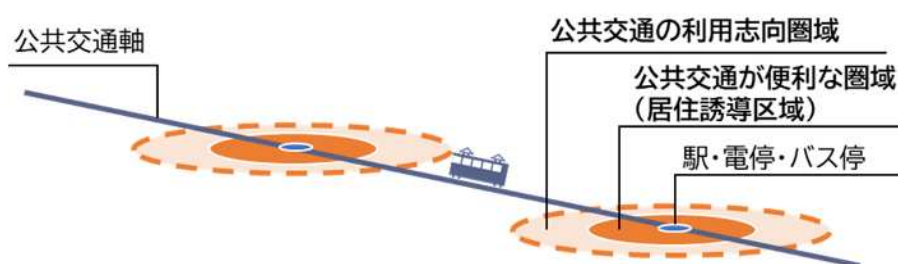


### 『都市の再構築』

既成市街地の「土地や建物」、「公共交通や道路・公園などインフラ」、「既存の都市機能や地域資源、自然環境」などの都市アセット(資産)を最大限に活かし、都市に新たな価値を付加する取組み。

- ① まちづくりの基軸となり多面的な価値をもたらす「公共交通の活性化」
- ② 市民が公共交通利用を意識した居住地選択ができる「公共交通志向型居住の推進」
- ③ 地域の個性を活かして魅力を最大化する「中心市街地をはじめとした拠点の形成」
- ④ 人口減少下における道路・土地・建物等の総合的な「都市マネジメントの推進」

### <公共交通志向型居住の推進のためのエリア設定>



#### 【公共交通の利用志向圏域】

公共交通軸の鉄軌道駅から概ね750m、バス停から概ね600mの範囲で、公共交通利用を意識した市民生活の醸成を図る圏域

#### 【公共交通が便利な圏域】

都心地区と公共交通軸の鉄軌道駅から概ね500m、バス停から概ね300mの用途地域等が定められた徒歩圏で、都市の諸機能や居住を誘導する圏域



## まちの目標

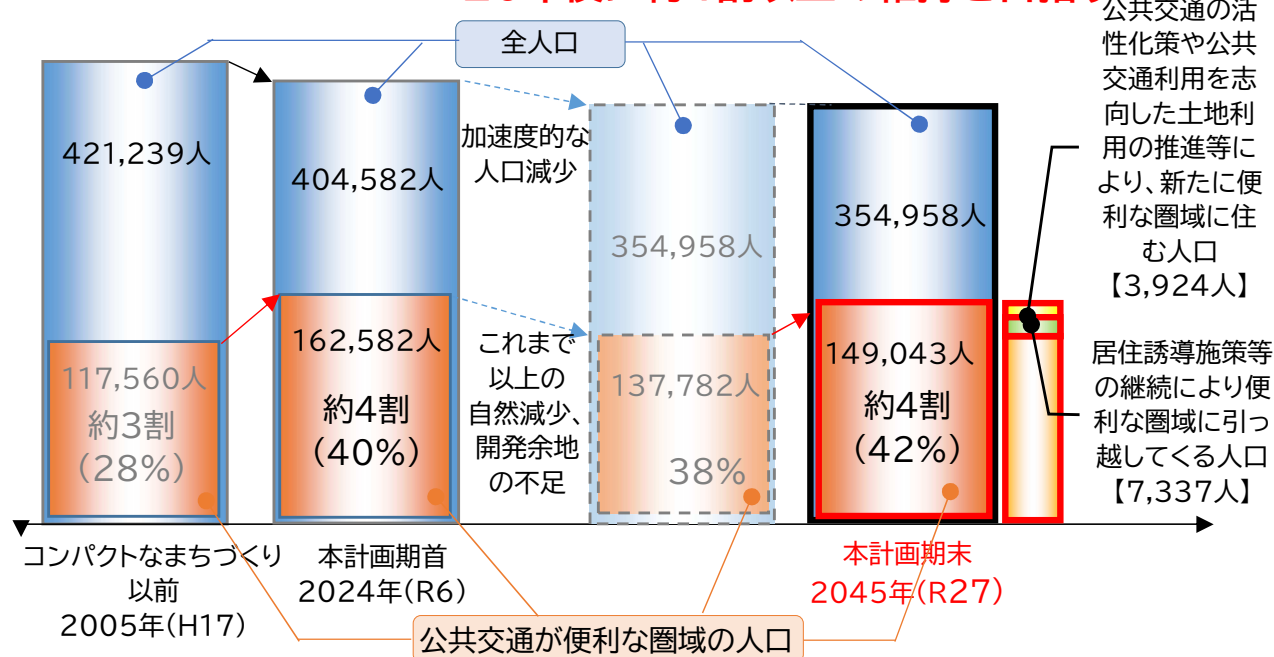
- ①車を使わなくても安心・快適な暮らしを実感できるまち
- ②市民のライフステージ等に応じた多様な住まい方が選択できるまち
- ③地域の個性が発揮された拠点集中型のまち
- ④持続可能で災害に強い、安全・安心のまち
- ⑤豊かな自然を守り育てる、環境に優しいまち

## 第Ⅰ編 全体構想

## 数値目標

## 公共交通が便利な圏域に住む市民の割合

～20年後に約4割以上の維持を目指す



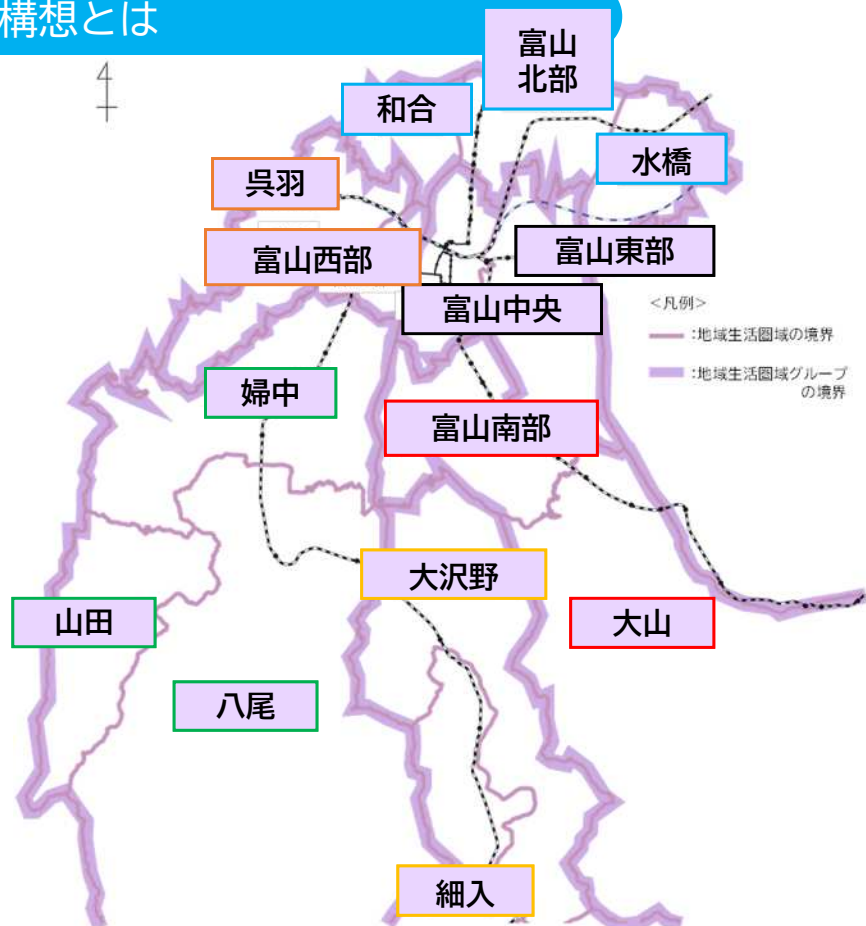
## 第Ⅱ編 地域別構想

## 地域別構想とは

・14の地域生活圏域の現状を踏まえ、全体構想における位置づけ、市民アンケート結果や地域間のつながり(6つの圏域グループ)を踏まえつつ、市民ワークショップで出されたアイデア等を参考としながら、地域のまちづくりの方針を明らかにするもの。

## &lt;地域別構想の役割&gt;

- ①各地域のまちづくりの基本的な方針
- ②各地域の都市計画や基盤整備の主な内容

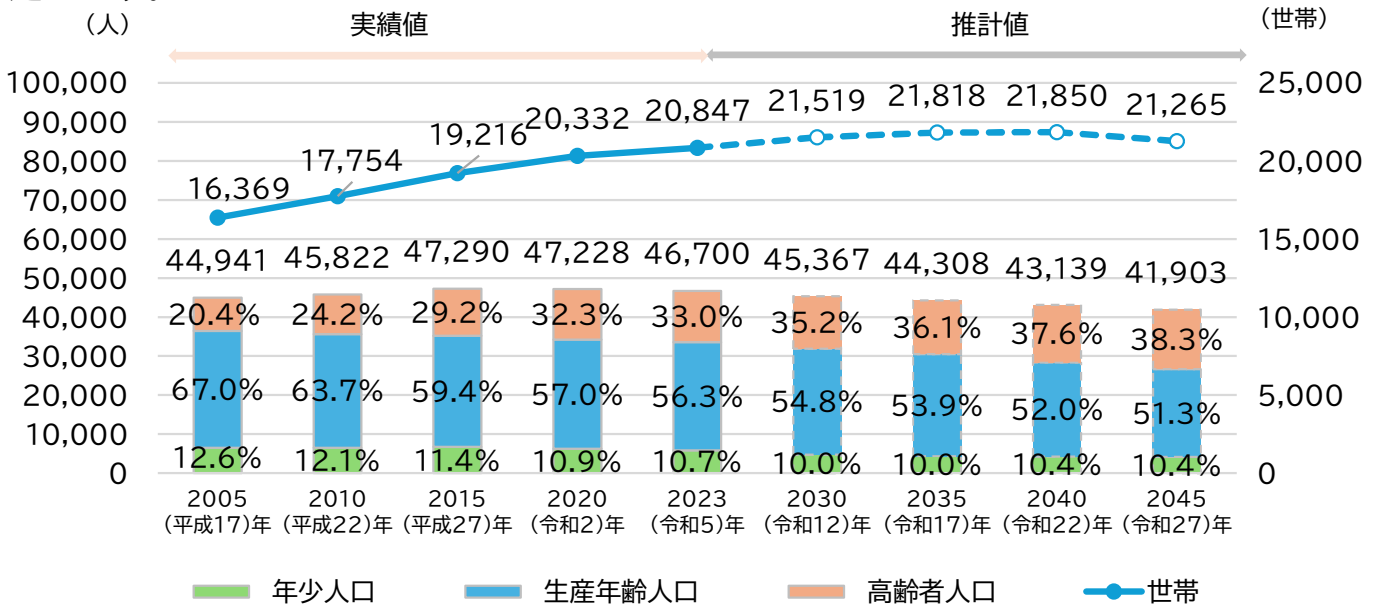


## 1 地域の現状

富山地方鉄道不二越・上滝線や主要なバス路線の沿線にスーパーや衣料品店、飲食店等が充実し、都心地区へのアクセス性も高い地域です。また、国道41号・富山IC・富山空港等の広域交通網、スポーツや交流・健康増進を図る大規模な公園等があります。

### <人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し>

人口は減少傾向にあり、2023（令和5）年時点で46,700人、高齢化率は33%と3割を超えています。今後、人口は継続して減少し、世帯数は今後ピークを迎え、減少に転じる見込みです。



### <市民ワークショップでの意見>

|                  |                                                             |
|------------------|-------------------------------------------------------------|
| 《地域の魅力》          | 「集客施設立地（空港、運動公園など）」「豊かな自然（田園景観、立山眺望景観）」「住みやすさ（コミュニティのつながり）」 |
| 《20年後の地域の将来イメージ》 | 自然とコミュニティが活きる全世代が元気に暮らせるまち                                  |

## 2 まちづくりの方針

### i) 多様な世代が行き来する結節性を活かした南富山駅周辺での副次都市拠点の形成

・複数の公共交通と通学通勤で多様な世代が行き来する結節性を活かし、商業や業務の活性化、多世代の交流、さらには周辺地域への玄関口としての機能等の充実を図ります。

### ii) 公共交通の活性化と連携した良好な居住環境の形成

・富山地方鉄道不二越・上滝線や幹線バス路線の活性化と連携して、沿線の諸機能を活かし、また既成市街地の更新を促すことで、良好な居住環境を形成します。

### iii) 大規模な公園や運動施設を核としたスポーツ・レクリエーションの場の形成

・富山県総合運動公園など多様な機能を持つ充実した公園や運動施設を核に、市民がスポーツやレクリエーションに親しめる場を形成します。

### iv) 豊かな自然環境や営農環境の保全

・熊野川などの自然環境や田園が広がる営農環境を保全します。

### v) 広域物流や移動に優位な交通環境を活かした産業の保全や誘導

・空港や富山ICなどとの結節性を活かし、産業の保全や誘導を図ります。

### vi) 安全・安心なまちの形成

・洪水等の災害リスクの回避や低減、社会インフラの適正な維持管理を推進します。

### 3 主な取組や土地利用の方針

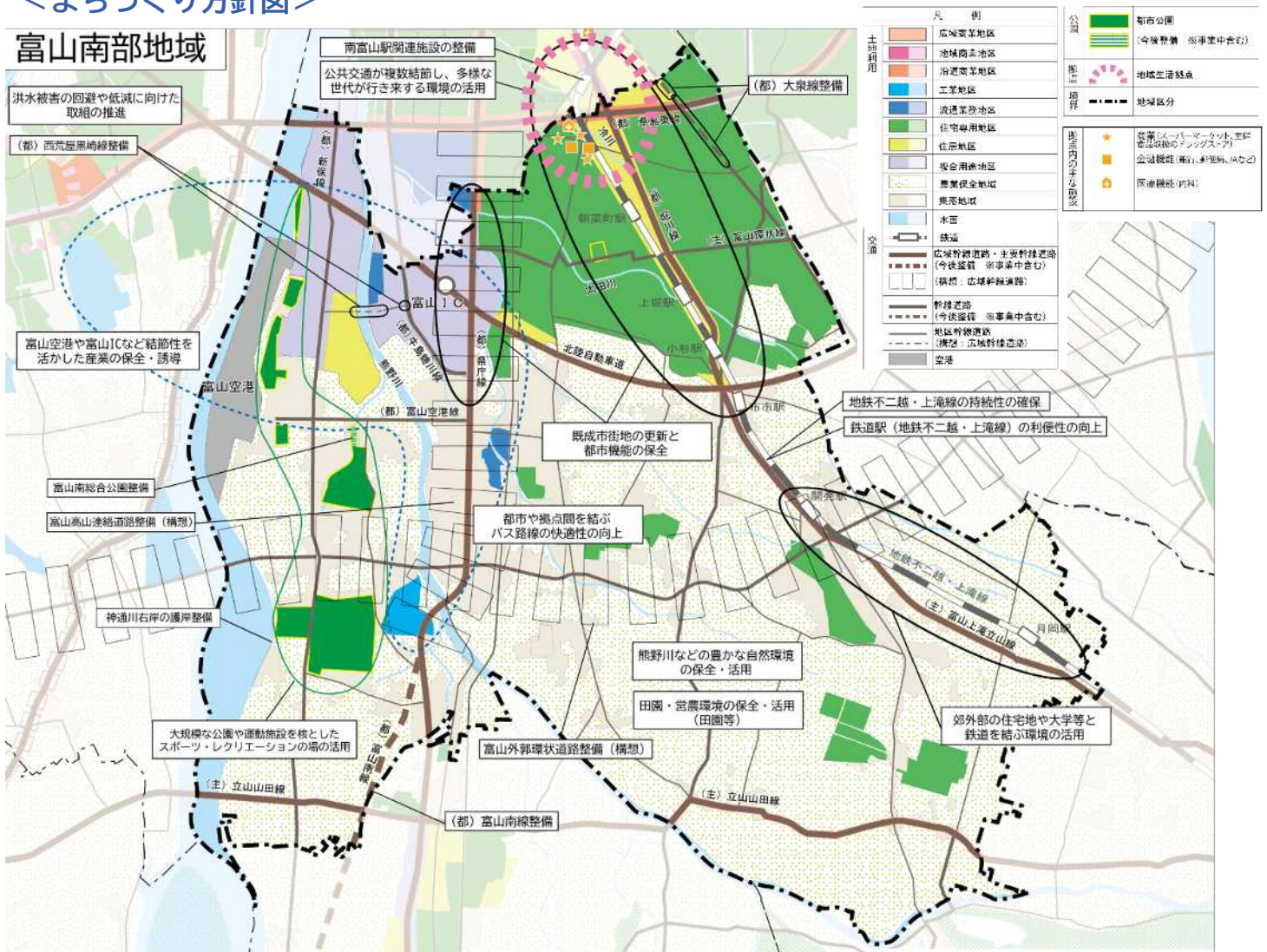
#### <主な取組>

- 【 串 】 ・ 富山地方鉄道不二越・上滝線の持続性の確保
- ・ 都心や拠点間を結ぶバス路線の快適性の向上
- ・ 市民の足としての生活交通等への支援
- ・ 南富山駅での交通結節機能の強化
- ・ 鉄道駅の利便性の向上
- 【 団 子 】 ・ 生活に必要な機能の維持や既成市街地の更新の促進
- ・ 南富山駅周辺での都市機能の維持や充実、交流機能の強化
- ・ 洪水等のリスク回避や低減、社会インフラの適正な維持管理の推進

#### <土地利用の方針>

- 【商業系】 南富山駅周辺等での小売業等の機能を維持
- 【産業系】 富山IC周辺での産業集積の保全や新たな産業立地の誘導
- 【住宅系】 公共交通活性化と併せた環境整備や沿道施設との調和による良好な住環境の形成
- 【農業・自然系】 市街地周辺での個別開発の抑制による、営農・自然環境の保全

#### <まちづくり方針図>

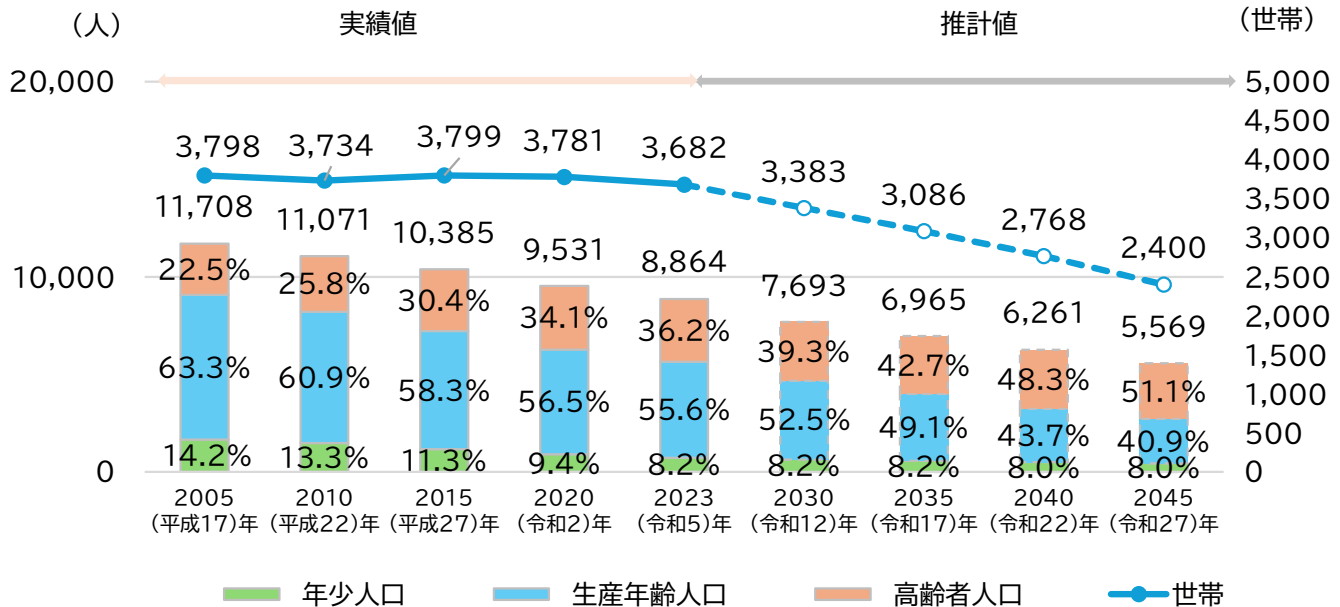


## 1 地域の現状

常西合口用水等の水資源や歴史文化資源に恵まれ、地域の多くを占める中山間地域では、山岳などの自然環境や、スキー場などの観光・レクリエーション資源があります。また、富山国際大学を中心とした学術文化の場も形成されています。

### <人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し>

人口と世帯数は既に減少しており、2023（令和5）年時点で8,864人、高齢化率は36%と3割を超えています。今後も、人口・世帯数ともに減少し、また高齢化率は5割を超える見込みです。



### <市民ワークショップでの意見>

|                  |                                                                                |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 《地域の魅力》          | 「公共交通網の充実」「豊かな子育て環境」「地域でつながり交流できる環境」「豊かな自然環境、観光、レクリエーション資源の充実、豊富な文化資源」「災害の少なさ」 |
| 《20年後の地域の将来イメージ》 | 大工学を始めよう！日本一幸せな“限界集落”                                                          |

## 2 まちづくりの方針

### i) 豊かな水辺空間、歴史・文化資源を活用した地域拠点の形成

・生活に必要な機能が立地するとともに、常西合口用水等の水辺空間や歴史・文化資源を活用し、市民や来街者の都市活動の創出を図ります。

### ii) 公共交通の活性化と連携した良好な居住環境の形成

・富山地方鉄道不二越・上滝線の活性化と連携して、沿線の諸機能を活かし、また既成市街地の更新を促すことで、良好な居住環境を形成します。

### iii) 山岳やスキー場など特色ある施設や資源を活かした自然・レクリエーションの場の形成

・有峰湖や立山山麓スキー場等の施設や資源、立山黒部アルペンルートへの経由地としての特性を活かし、市民や来街者が自然環境やレクリエーションに親しめる場を形成します。

### iv) 都心や拠点間、主要な施設を結ぶ公共交通や主要な道路の適正な保全や整備

・上滝駅周辺の市街地や大山研究学園都市などの主要施設を結ぶ公共交通及び主要な道路を適正に整備・保全し、周辺地域との円滑な移動環境を形成します。

### v) 豊かな森林や水源など自然環境の保全

・森林や水源の適正な管理を推進し、豊かな自然環境の保全を図ります。

### vi) 安全・安心なまちの形成

・洪水や土砂災害等のリスク回避や低減、社会インフラの適正な維持管理を推進します。

### 3 主な取組や土地利用の方針

#### <主な取組>

- 【 串 】 ・ 富山地方鉄道不二越・上滝線の持続性の確保
- ・ 市民の足としての生活交通等への支援
- ・ 上滝駅へのアクセス環境の改善
- ・ 鉄道駅の利便性の向上
- 【 団 子 】 ・ 生活に必要な機能の維持や既成市街地の更新の促進
- ・ 特色ある自然環境や資源を活用した拠点形成
- ・ 洪水等のリスク回避や低減、社会インフラの適正な維持管理の推進

#### <土地利用の方針>

- 【商業系】 上滝駅周辺などで、小売業などの機能を維持
- 【住宅系】 公共交通活性化と併せた環境整備や沿道施設との調和による良好な住環境の形成
- 【農業・自然系】 市街地周辺での個別開発の抑制による、営農・自然環境の保全

#### <まちづくり方針図>

